

亀井茜風 ラグビー選手(東芝ブレイブルーパス東京)

明治大学

政治経済学部経済学科卒

自分の大学4年間は勉強にも励みましたが、やはり何に一番熱量と時間を注いだかと聞かれると部活動であるラグビーです。4年間の部活動生活でラグビーを通し、これからの人生において必ず大切になるいくつものことを学ぶことができました。そして、一人の人としてとても成長できた4年間だったように思えます。

自分の入部した明治大学ラグビー部は現在創部 101 年を誇る歴史と伝統のあるチームです。そのため、選手は全国で名をはせた才能のある選手が毎年多く入部してきます。90 人強の部員が憧れの紫紺のジャージに袖を通すため、必死に努力し、切磋琢磨する学生生活を送ります。

自分が本格的に紫紺のジャージに袖を通すことができるようになったのは2年生からです。2年生のシーズンでは2試合を除き、全ての試合にリザーブながらメンバー入りすることができました。しかし、毎日のライバルとの競争に勝ち続けなければ試合に出場することができないため、練習中は常に気を張っていました。高校時代は部員数も少なく、試合出場がほとんど確約していました。そのため、大学時代のメンバー発表時は常に緊張が走っていました。しかし、ライバルたちと競争していく中でこのジャージは自分一人のものではないと気づかされました。4年間ジャージに手が届かなかった先輩方や、試合に出たくても出れない人たちの代表としてこのジャージを着ているんだということを知ることができました。実際、三年生のころからは怪我が増え、思うようなパフォーマンスができず試合に出場することができない事もありました。その際に全てを投げ出したい気持ちになり、やめたいという感情があったのも事実です。しかし、自分がメンバーに入っていた時に、決して表ではネガティブな一面を見せずにサポートしてくれた先輩方や仲間たちの姿を見て、踏ん張ることができました。

自分は試合に出れない辛さ、試合に出る辛さ、この両方を味わうことができたのは人間として成長する過程でとても重要なことだったと考えます。人間の本当の部分が見えるのは、調子がいい時ではなく、その人が逆境に立っているときであると身をもって体感することができました。また、スポットライトが当たっていない所でハードワークしている人がいるからこそ、表舞台の人が輝けることも学ぶことができました。

自分は2月から東芝ブレイブルーパス東京に入団しました。チームは昨シーズン 14 季ぶりの優勝を果たしました。厳しい競争が待ち受けていますが、大学生活で学んだやり続ける気持ちを持って頑張ります。